

第1章 道徳科の学習評価の進め方

1 何を評価するのか

道徳科の目標では、下に示すように、道徳科の学習を通して、道徳的判断力や道徳的心情等の道徳性の育成を目指しています。

【道徳科の目標】

(小) 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲及び態度を育てる。

(中) 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲及び態度を育てる。

道徳科の授業は、道徳性の育成を目指して行いますが、児童生徒の道徳性が育ったかどうかを評価するものではありません。

学習指導要領には、次のように示されています。

【「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4】

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。

ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

道徳科における学習評価は、週一時間の道徳科の授業における児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握することを指しています。



○道徳性そのものを評価するのではない。

○道徳科の評価は、道徳科の授業における児童生徒の「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」の把握を指す。

では、道徳科の授業において、なぜ、道徳性を評価しないのでしょうか。 ➡ 次ページ

2 なぜ、道徳性を評価しないのか

目標に示されている道徳性を、なぜ評価しないのでしょうか。
その前に、道徳性とはどのようなものか、まず確認しておきましょう。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性。

児童生徒のよりよく生きようとする人格的特性（道徳性）を、数値等によって、あるいは一つの姿をもって、安易に評価することは不適切と言えます。

道徳性は、様々な様相で構成されています。道徳性の諸様相については、様々な捉え方や考え方がありますが、学校教育においては、次のように捉えることが大切です。



道徳性の諸様相

⇒ 道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度

宮澤章二氏の「行為の意味」（2010 ごま書房新社）には、次のようなフレーズがあります。

「思い」は見えないが、
「こころ」は見えないが、



よりよい行為へのエネルギー
（道徳性＝内面的資質）



- ・道徳的判断力
- ・道徳的心情
- ・道徳的实践意欲と態度

「思いやり」は見える。
「こころづかい」は見える。

※宮澤章二『行為の意味』より



よりよい行為
（道徳的实践）



- ・道徳的習慣
- ・道徳的行為

「思いやり」や「こころづかい」は、児童生徒の行為や発言として表れるので、見取ることができます。

しかし、道徳性に当たる「思い」や「こころ」は、見取ることが困難です。

つまり、道徳性とは、目に見えない内面的資質のことなのです。

○道徳性は、目に見えない内面的資質であり、授業において、道徳性が育ったかどうかは、容易に判断できるものではない。

○道徳性そのものを評価するのではなく、授業の中で見られる児童生徒の「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」を把握していく。



では、「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」とは、何のことでしょうか。☞ 次ページ

3 「学習状況」とは何か

道徳科の学習状況とは、下のような道徳科の目標に示されている学習活動における児童生徒の発言や記述等のことです。

道徳科の目標に示されている学習活動

①道徳的価値についての理解

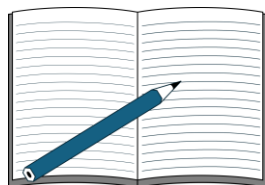
②自己を見つめる

③物事を多面的・多角的に考える

④自己の(人間としての)生き方についての考えを深める

道徳科の学習状況とは、
左の①～④のような学習をしている
児童生徒の姿のこと。

上の①～④のような学習をしている児童生徒の様子を、授業中の発言、ノートやワークシートの記述、グループでの話合いの様子等から把握していきます。



但し、下のような学習状況を指すものではありません。

- エラー1 「自分の考えをきれいな字で丁寧に書いている。」
- エラー2 「たくさん手を挙げて発表することができている。」
- エラー3 「自分の考えを大きな声で堂々と説明できている。」



学習状況の評価とは、学習活動の様子、つまり、学習のプロセスを評価することであり、目標の達成状況や学習の到達度、定着状況のことではありません。

児童生徒に心を寄せ、上の①～④のどのような状況なのかを見取る力が必要となります。

4 「道徳性に係る成長の様子」とは何か



「道徳性に係る成長の様子」とは、
道徳科の目標に示された学習活動を積み上げた結果
としての、学習状況の成長の様子と言える。

道徳性に係る成長の様子とは、「道徳性の成長」のことではありません。

「道徳性に係る」とは、「道徳性を育成することに関係する」や「道徳性につながっていく」等の意味があると言えます。

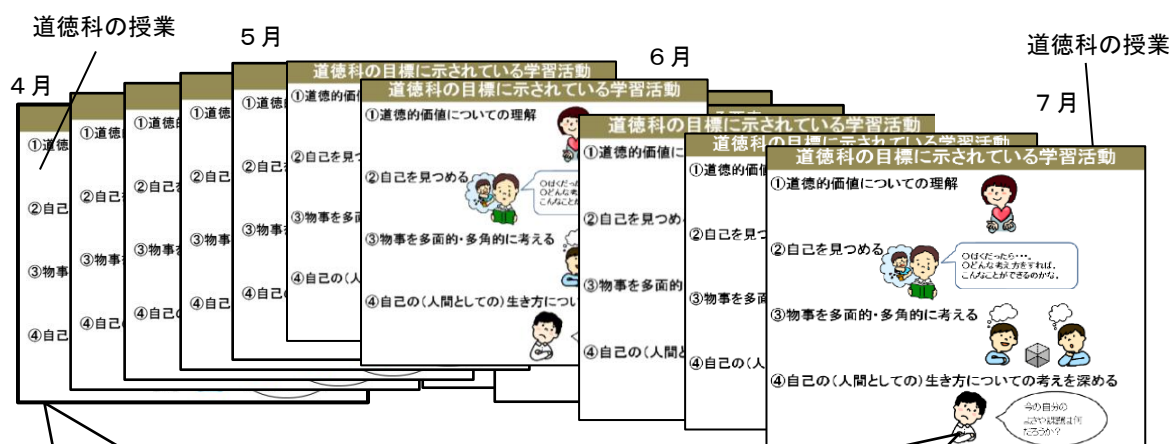
道徳性に係る成長の様子



道徳性の成長の様子

道徳科の授業が、「道徳性を育成することに関係する」学習や「道徳性につながっていく」学習となるためには、道徳科の目標に示されている学習活動を行う必要があります。

そして、週一時間の道徳科の授業を確実に実施することが、児童生徒の学習状況の成長につながっていくのです。



学習状況の成長の様子



例えば、学習状況の成長の様子として、上の図の子どもは、読み物教材のある場面に対し、登場人物を自分に置き換えて考えるようになってきました。

5 「学習状況」を把握するためには

道徳科の学習状況を把握するには、道徳科の目標に示されているような①～④の学習活動を行うことが必要です。

そして、①～④の学習をしている児童生徒の様子を把握していくのです。

- ①道徳的価値についての理解
- ②自己を見つめる
- ③物事を多面的・多角的に考える
- ④自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

しかし、①～④の学習の様子は、明確に区別することは難しい場合があります。

例えば、多面的・多角的に考えることで道徳的価値の理解を深めたり、自己を見つめることで道徳的価値の理解を深めたりする場合があるからです。

学習指導要領解説では、次の2つの着眼点で、児童生徒の学習状況を把握していくことが示されています。

道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているかどうか

一面的な見方から**多面的・多角的な見方**へと発展させているかどうか



具体的な学習状況で言えば



例

道徳的価値を実現することの難しさや大切さを自分事として考えている姿

例

他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めている姿

例

読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考えている姿

例

道徳的価値に関わる問題に対して、判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から考えている姿

例

現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している姿

例

自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている姿

Point!

「学習状況」は、ここに示した7つの例以外にも考えられます。

例

複数の道徳的価値の対立が生じる場面を多面的・多角的に考えている姿



左ページの7つの例を参考にしながら、下のように期待する児童生徒の学習状況を思い描き、日々の授業に取り組むことが大切。

【評価の着眼点（例）】・・・授業において、期待する学習状況のこと

道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているかどうか

一面的な見方から**多面的・多角的な見方**へと発展させているかどうか



オオカミに自我関与して、親切にする気持ちよさについて発言しているかどうか

【教材 はしの上のおおかみ 低学年】

洋服を汚した立場と洋服を汚された立場の双方の思いを考えながら、発言しているかどうか

【教材 黄色いベンチ 低学年】

サムを許すことの難しさについて、自分事として、考えたり話し合ったりしているかどうか

【教材 ブランコ乗りとピエロ 高学年】

サムを受け入れる時の様々な考え方について、発言したり書いたりしているかどうか

【教材 ブランコ乗りとピエロ 高学年】

よしこの行為について、自分事として考えたり、きまりやマナーの視点から発言したりしているかどうか

【教材 雨のバス停留所で 中学年】

2つの思いやりを比較したり、女の子の気持ちを想像したりしながら考えているかどうか

【教材 父の言葉 中学校】

久留島武彦の生き方から、夢や目標をもつよさを話し合ったり、今の自分を振り返ったりしているかどうか

【教材 日本のアンデルセン 久留島武彦 高学年】

元さんがとった行動に対して、規則尊重と生命尊重を関連付けて発言したり、書いたりしているかどうか

【教材 二通の手紙 中学校】

裕介の思いと自分を重ねながら語り合ったり、精一杯生きる意味を自分事として書いたりしているかどうか

【教材 きみばあちゃんの椿 中学校】

掃除係の生き方から、働くことの意味や大切さを、様々な側面から考えたり、話し合ったりしているかどうか

【教材 そうじの神様が教えてくれたこと 中学校】



上に示した【評価の着眼点（例）】は、各教科における「評価規準」に相当します。

道徳科の特質として理解する必要があります。

6 道徳科の「学習状況」の具体例

実際の授業における児童生徒の発言等から、学習状況を考えてみます。
ここでは、小学校高学年の教材「ブランコ乗りとピエロ」の実践で説明します。

☞ 臼杵市立福良ヶ丘小学校 長谷川 千尋 教諭の実践から（平成29年8月4日）

(1) ブランコ乗りとピエロ (高学年「私たちの道徳」文部科学省)

サーカス団のリーダーであるピエロは、自分の忠告も聞かず、スター気取りのサム（ブランコ乗り）に腹を立てていた。

大王を招いての演技披露の時も、サムが目立ち、ピエロは自分の演技を大王に披露することができず、憎しみの気持ちがさらに高まった。

しかし、演技を終えて疲れ切ったサムの姿を目にすると、ピエロの心から、サムへの怒りや憎しみが消え去るのであった。

(2) 授業のねらいと評価 <内容項目「謙虚・寛容」>

【学習の中心的内容】 ピエロがサムを受け入れたことについて

【学 習 活 動】 人を許すことの難しさや受け入れるときの様々な考え方を話し合う活動を通して、

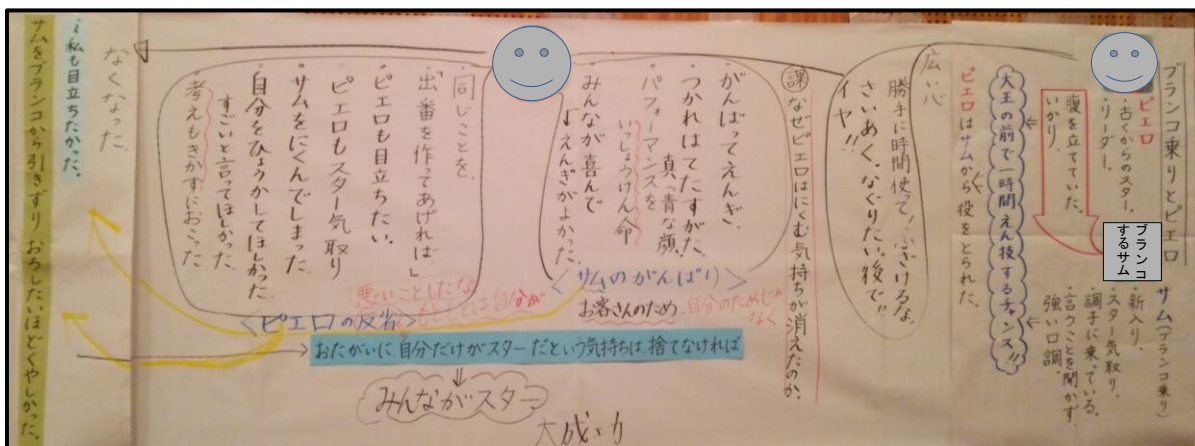
【道徳性の諸様相】 誰に対しても公正，公平に接しようとする心情を育てる。

→【評価の着眼点】（期待する学習状況）

○サムを許すことの難しさについて、自分事として、考えたり話し合ったりしているかどうか

○サムを受け入れる時の様々な考え方について、発言したり書いたりしているかどうか

(3) 授業の実際 【板書】



自分に反省することがある ⇒ 許す

自分にも反省すべきことがあると思えたら、人の失敗を許せるという考え方

相手の長所 ⇒ 許す

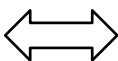
相手のよさやがんばりがわかったら、人の失敗を許せるという考え方

(4) 授業の実際 【展開】

授業の前半は省略

(中心発問) なぜ、ピエロはサムを憎む気持ちが消えたのかな。

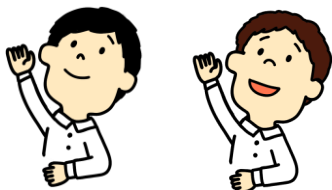
- ・サムが一生懸命だから。
- ・サムががんばっているから。



- ・サムの考えも聞かずに、一方的に責めてしまったことを反省したから。

相手の長所 ⇒ 許す

自分も反省することがある ⇒ 許す



＜相手の長所 ⇒ 許す＞という立場の発言が集中する。

私は、＜相手の長所 ⇒ 許す＞という考えに納得できない。

大切な出番を奪われたのに、相手が少しがんばったくらいでは、簡単に許せない。

Aさん

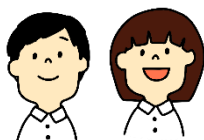


ん~~~~。
何だか迷って
きたわ。



Aさんは、道徳的価値を実現することの難しさを自分事として考えていると言えます。

教師が、Aさんの発言を取り上げ、全体の話題にすると、左のような対話が生まれてきました。



Aさんの考えを
どう思う？

2つの考えを比べたとき、どちらもあると思うけど、私はやっぱり、自分にも反省する点があると思った時に、許せる気持ちがわいてくる。

Bさん



Bさんは、初めから、＜自分も反省することがある ⇒ 許す＞という考えでした。その後、他者との対話を通して、初めにもった考えに、さらに納得することができたことが「やっぱり」という言葉から伺えます。この時、Bさんは、2つの考えを比較するような多面的・多角的な思考だったと言えます。

ピエロはサーカス団のリーダーだから、仲間の気持ちはわからないといけないと思う。ぼくがもし、リーダーだとしたら、怒ってばかりの自分ではいけないと思うから。

Cさん



Cさんは、サーカス団のリーダーであるピエロと、縦割り班のリーダーである自分を重ねながら考え、発言しています。

この時のCさんは、リーダーとしての自分の経験を振り返っています。

このような学習状況を「自己を見つめる」と言います。

(5)「学習状況」の把握と記録

Aさん



私は、＜相手の長所 ⇒許す＞という考えに納得できない。
大切な出番を奪われたのに、相手が少しがんばったくらいでは、簡単に許せない。

Bさん



2つの考えを比べたとき、どちらもあると思うけど、私はやっぱり、自分にも反省する点があると思った時に、許せる気持ちがわいてくる。

Cさん



ピエロはサーカス団のリーダーだから、仲間の気持ちはわからないといけないと思う。
ぼくがもし、リーダーだとしたら怒ってばかりの自分ではいけないと思うから。



長谷川教諭が設定した評価の着眼点
(期待する学習状況)

サムを許すことの難しさについて、自分事として、考えたり話し合っているかどうか

サムを受け入れる時の様々な考え方について、発言したり書いたりしているかどうか

長谷川教諭は、設定した評価の着眼点に沿って、3人の児童の学習状況を把握しました。

Aさんは、サムを許すことの難しさについて、自分事として考え、意見を述べています。
Bさんは、サムを受け入れる時の2つの考え方を比較して、発言しています。
Cさんは、サムを受け入れる時の考え方を、「リーダー」という視点で発言しています。

このような期待する学習状況を把握できたら、記憶が新しいうちに、右のようなエピソードノート（仮称）に記録していきましょう。

一度の授業で全員を把握し記録することは困難です。例えば、1時間の授業で3～5人の学習状況を記せば、8～10時間で、学級全員を記録できます。

また、ワークシートの記述やグループでの話合いから、学習状況を把握することも考えられます。

7 / 4

Aさん
サムの勝手な行為は簡単に許せるものではないと発言し、人を許すことの難しさについて気づいた。

Bさん
人を許す時の2つの考え方や感じ方を、自分との関わりで考え、発言することができた。

Cさん
自分がピエロの立場だったら、どうすべきなのかを、リーダーという視点と自分の経験に基づいて考えていた。

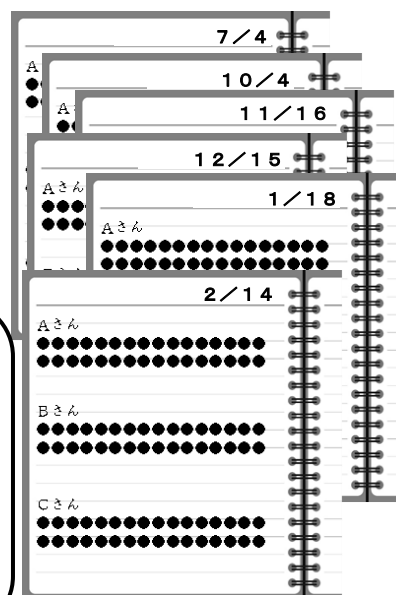
7 指導要録の記載

例えば、Aさん、Bさん、Cさんの授業中の学習状況を右のようなエピソードノート（仮称）に、6回分、記録として残すことができましたとします。

この6回分の記録やワークシート等の記述を総括して、評価を行います。



- たった1回の授業の学習状況では、評価の妥当性や信頼性を担保することは難しい。
- 指導要録へ記載する際には、右のような一定期間における複数の情報に基づいて評価を行う。



「学習状況」の評価例

Aさん



特 別 の 教 科 道 徳
学習状況及び道徳性に係る成長の様子
道徳的価値を実現することの大切さや難しさについて、自分事として考え、発言することができた。

Bさん



特 別 の 教 科 道 徳
学習状況及び道徳性に係る成長の様子
友達の考えと自分の考えを比較しながら、よりよい考え方を追究し、自分の願いをもつことができた。

Cさん



特 別 の 教 科 道 徳
学習状況及び道徳性に係る成長の様子
登場人物が置かれた状況を自分事として考えたり、自分の経験を振り返ったりしていた。

「道徳性に係る成長の様子」の評価例

Dさん



特 別 の 教 科 道 徳
学習状況及び道徳性に係る成長の様子
登場人物の生き方について、自分にとって何が大切かを考えるようになってきました。



この児童は、道徳科の目標に示された学習活動のうち、特に「自己の生き方についての考えを深める」ことに成長が見られた児童です。